

国立大学法人福岡教育大学の平成25年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

福岡教育大学は、学術の中心として深く専門の学芸を研究教授するとともに、広く知識技能を開発し、豊かな教養を与え、もって有為な教育者を養成し、文化の進展に寄与することを目的としている。第2期中期目標期間においては、質の高い教員養成と豊かな教養と学問に根ざした専門的知識の上に確かな教育実践力を持ち、学校教育の現代的課題に積極的に取り組む個性豊かな教員を養成すること等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、学部新カリキュラムの実施に伴う「福教大スタンダード」の明示と「コースツリー・履修モデル」の策定、県内全域60すべての教育委員会と様々な教育課題について連携できる体制を構築するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

(機能強化に向けた取組状況)

学内外の諸情報を収集・活用し、教職協働により企画立案を行う「戦略企画室」の設置等による学長のリーダーシップを発揮するための取組や、初等教育教員養成課程を主な対象として、学校現場で実践可能な英語コミュニケーション能力を身につけた教員を養成するために「福岡教育大学英語習得院（仮称）」を平成26年度から設置することとしている。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

平成25年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 学長のビジョンや大学の経営方針を共有して適切な役割を果たすことができるようになるため、学部長以外の部局長を学長の指名による選考に改めるとともに、学部長についても、学長の指名とするよう学内規程の改正を行うこととしているなど、ガバナンス体制の強化を推進している。
- 初等教育教員養成課程を主な対象として、学校現場で実践可能な英語コミュニケーション能力を身につけた教員を養成するために、戦略的な教員選考の観点から「福岡教育大学教員選考の特例に関する規程」を制定し、従来の教員選考手続きに拠ることなく、ミッションに係る取組等に必要な教員を学長が採用できることとし、平成26年4月1日に外国人教員1名を採用している。
- 「IR (Institutional Research) 推進室」を立ち上げ、事務局各課が保有するデータを取りまとめ、収集したデータから各講座の科研費申請・採択状況、就職状況等の分析を行い、その結果を「福教大 View」として整序するなど、学内外の諸情報を収集・活

用し、学長の企画立案機能を強化している。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載9事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

(①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、
③資産の運用管理の改善)

平成25年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 全学の複写機の契約を講座ごとの仕様に合わせた個別契約から、5年間（平成26年度から平成30年度）一括契約による公告入札に変更することで、初年次に年間約1,400万円の経費削減、2年次以降は毎年約2,000万円、5年間の合計で約9,300万円（見込額）の経費削減につなげている。
- 学長のリーダーシップの下、平成26年度予算編成において、従来、各講座等に措置していた教育研究費の約1/3（6,000万円）を全学的な教育研究費（全学経費）として、ミッションの達成をはじめとした大学改革に資するプロジェクトや教員就職率の向上に向けた施策等に重点的に使用することとしている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載4事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

(①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進)

平成25年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 平成25年度の大学教員活動評価の結果を処遇へ反映する新たな方策として、教育領域と研究領域の評価結果が特に優れた若手教員9名（うち女性4名）に対して、研究費として1名につき30万円を学長裁量経費から配分（総額270万円）するとともに、その成果を翌年度に公開発表することを義務付けている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

(①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守)

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 新カリキュラムの実施に伴い、各選修・専攻・コースのディプロマ・ポリシーに照らして、各授業科目が担う育成すべき資質能力の到達目標「福教大スタンダード」を明示するとともに、各授業科目が4年間にわたる教育課程においてどのように位置付けられるかを選修・専攻・コース単位で可視化した「コースツリー」を策定している。
- 教員志望者数及び教員就職者数向上のための具体的方策として、各講座から選出された教員による就職担当者連絡会を毎月開催し、各講座とキャリア支援センターとの情報交換と連携強化、教員採用試験特別講座を充実した結果、教員養成課程の平成 26 年 3 月卒業者の正規教員就職者数は対前年度比で 30 名増加している。
- 「学生ボランティア活動運営委員会」を設置するとともに、ボランティアコーディネーターとして宗像市の退職校長を新たに採用し、ボランティア派遣先からのニーズの調整、学生への事前指導、ボランティア派遣先の新規開拓を行うなど、ボランティア支援体制を強化した結果、平成 24 年度と比較してボランティアの参加学生数が 72 %増加 (626 名増) している。
- 福岡県内教育委員会と組織的に連携して双方のさらなる教育の充実・発展を図ることを目的に、「国立大学法人福岡教育大学と福岡県市町村教育委員会連絡協議会の連携協力に関する協定」を締結するなど、県内全域 60 すべての教育委員会との連携体制を確立するとともに、各教育委員会が抱える教育課題について連携して対応を推進していくこととしている。
- 「附属学校の活用に関する基本方針」に基づき、平成 25 年度は、附属福岡小学校において、複数の領域の大学教員との連携の下、生活科、道徳、学級活動、総合的な学習の時間の内容や時数を組み替えて新領域「生き方」を新設するとともに、大学教員

と附属学校教員で「生き方」で育む資質・能力を検証するなど、「地域のモデル校」としての取組を推進している。

(教員就職状況)

- 平成 25 年 3 月卒業者（教員養成課程）の教員就職状況は卒業者 481 名に対し、正規採用が 138 名、臨時的任用が 154 名で、平成 25 年教員就職率は 60.7 %、進学者等を除くと 67.4 %となっている。